



手島茂樹教授による講演

平成二十二年五月二十九日(土)、九段校舎・四〇一教室において、平成二十二年二松学舎大学父母会定期総会が開催された。

総会に先立ち、本学国際政治経済学部・手島茂樹教授による、「『世界同時不況』と『ガラパゴス化』を越えて」と題した講演会が行われた。

午後二時三十分、塩澤尚子氏の司会で

平成二十二年 定期総会開催

二松学舎大学 父母会報

平成5年5月10日創刊
平成22年7月31日発行
(第69号)

二松学舎大学父母会

(本部)東京都千代田区三番町6番地16
(事務局)千葉県柏市大井2590
〒277-8585 TEL.04(7191)8756

二松学舎大学柏事務局

題字は
故 観山貞廣常吉先生書



総会を開会、山岡会長、大学代表の渡辺学長、大山理事長がそれぞれ挨拶した後、月永美世香議長により議事に入った。

議事は第I号議案平成二十一年度事業報告並びに決算は、審議の結果原案どおり承認された。

第II号議案の平成二十二年役員選出では、会長に桐原利之氏、併せて、会計監査に・幸田類氏・月永美世香氏が決定した。

第III号議案平成二十二年事業計画並びに予算が審議され、それぞれ承認された。

議事終了後、平成二十一年度末で役員を退任した山岡英夫氏・多田博子氏・福井文子氏に渡辺学長から感謝状並びに記念品の贈呈があった。

また総会終了後、十三階ラウンジにおいて懇親会が開催され盛会のうちに終了した。



ごあいさつ



理事長 大山 徳高

暑中お伺い申し上げます。暑さ厳しき折、皆様にはご健勝にてお過ごしのことと存じます。平生より二松学舎にお寄せいただいているご理解とご支援に衷心より

「父母会と松苓会(同窓会)と」

厚く御礼申し上げます。さて、過日、本学の同窓会・松苓会の本年度総会が、九段一号館で開催され、ご挨拶を申し上げます。北は北海道から南は沖縄まで、松苓

会の支部があり、その支部長が集まり、年に一度総会を開いております。昨今は、東京近県の入学者が多くなっておりませんが、以前には全国各地から入学者があり、卒業後地元へ帰

動を担うことになりました。

挨拶の中で、父母会と松苓会が在生者のために手を携えることはできないか、松苓会の支部長が、地元へ帰る卒業生の就職等の相談にあずかる等のことはできないだろうか、といった話をさせていただきました。就職ばかりではなく何かと厳しい社会状況の中で、卒業生の会・松苓会と父母会とが卒業生のために協力し合える関係になっていただけたらと願っております。



二松学舎大学には、素直で、意欲のある学生が大勢います。私は、彼らに二松学舎大学で大きく成長してもらいたいと願ひ、また、二松学舎大学は彼らが大きく成長できる大学

中にいられるのですから、良い講義をすべく全力を傾注しなければならぬことは当然なことです。また、良い講義をするためにはしっかりと研究が必要で、さらに、研究に

「先生を利用しよう」

学長 渡辺 和則

でありたいと思っています。そういう気持ちを抱かせてくれる学生が大勢いる大学で教育研究に従事できることは大変に幸せなことです。私たちはそういう恵まれた環境の

傾注することは、研究者としての途を自ら選択した者にとって、当然の務めです。ですから、私は、色々の機会を利用して、先生方に対して「研究をしっかりとってください」と言

新役員紹介

役員に就任して

岩田 秀生

本年度、父母会役員に加わることになりました岩田です。大学まで東京で過ごし、就職してからは静岡で暮らしています。早く役員としての業務に順応するとともに、他大学の役員経験を活かして、東京と地方の掛け橋になり、また学生のために提案を發していくことが出来ればいいなと考えています。行き届かない点も多々あるとは存じますが、力の限り頑張つて参る所存ですので、どうぞ宜しくお願い致します。

星 照子

本年度、父母会の役員を務めさせていただく事になりました。父母の会活動が、ひとり、ひとりに役立つようにしたいと思ひます。足をひっぱらないで、少しでも皆様の役に立つようになつていきたいと思います。未熟ではございますが、どうぞよろしくお願ひをいたします。

父母会総会に夫婦で出席できる案内が来て微笑ましく感じました。夫妻で参加された方が多かったのもわが子が通う大学に関心を共有できるからだと思ひます。粋な計らいのできる父母会に親しみを感じ、末娘がお世話になる大学を少しでも知りた

ひとり息子がお世話になる大学で生涯最後になる父母会デビューしました。学生の皆さんが、少しでも過ごしやすい学生生活を送れるように、保護者の立場から何かお手伝いできる事があればとの思ひで、役員を務めさせていたたく事に致しました。未熟でございますが、どうぞ宜しくお願い致します。

鳴海るみ子

三輪 秀彰

今年度総勢十六名の役員会ですが、「子供たちのため、学生のため」という視点の話なら遠慮なしに徹底的に話し合おうと思ひています。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

今年度総勢十六名の役員会ですが、「子供たちのため、学生のため」という視点の話なら遠慮なしに徹底的に話し合おうと思ひています。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

平成22年度父母会活動について

父母会会長 桐原利之



新入生の御父母の皆様、お子様のご入学おめでとうございます。父母会への入会ありがとうございます。役員一同心から歓迎申し上げます。父母会活動も今年度は十八年目に入ります。これまでの諸先輩の方々が「父母と教職員とが一体となつて、一人ひとりの学生にきめ細かい支援がなされる」よう様々な施策を考え、活動を行つてきた歴史があります。今年度も三八〇〇万余の予算を元に、例年通りの活動を行つていきます。詳細は先日お送りいたしました定期総会のレジュメに掲載しております。

その中の特筆すべき点には、①厳しい就職環境の対策として、「就職指導支援経費」を増額した。②様々な分野で活躍する学生に贈る「学生顕彰費」を増額した。③奨学金を特別事業費から恒常的な事業費に組み直した。④去年

願ひ申し上げます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

願ひ申し上げます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

願ひ申し上げます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

願ひ申し上げます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



平成22年度 二松学舎大学 父母会定期総会議事録(抄)

日時：平成22年5月29日(土) 13:30～17:00

場所：九段校舎 401教室

講演：「世界同時不況」と「ガラパゴス化」を越えて

二松学舎大学教授 手島 茂樹先生

出席者：本年度会員数 3,017名

委任状 1,126名

出席者 73名 合計 1,199名

大学側：渡辺学長、大山理事長、吉崎副学長、佐藤学務局長、井上教学部長、神河キャリアセンター事務部長、高柳柏事務部長、高林柏事務副部長、志村事務課長、菅原柏事務課長、村瀬柏事務課員

1. 開会の辞 司会 塩澤尚子

司会者より「本日総会時の会員数は、3,017名であり、父母会会則第9条により委任状を含めて603名の出席が必要です。本日の出席者は73名。委任状は1,126名。合計1,199名です。よって本日の総会は成立する」との説明があった。

続いて、山岡英夫父母会長、渡辺和則学長、大山徳高理事長からそれぞれ挨拶があった。

2. 議長指名

司会者より「総会の議長は父母会運営細則により会長または会長の指名するものとなっており、会長より月永美世香さんが指名されているので、月永議長のもとで議事を進行させたい」との説明があり、月永氏が席についた。

3. 書記・議事録署名人名指名

月永議長が書記及び議事録署名人名として次の各氏を指名した。

書記 國府田恭子氏
議事録署名人 権平雅子氏、永松はるみ氏

4. 議事

◇第1号議案〈平成21年度事業報告並びに決算〉

山岡会長より、議案書に基づき概要説明があり、続いて幸田会計監査より監査報告があった。審議の結果、原案のとおり承認された。

◇第2号議案〈平成21年度役員選出〉

月永議長から、会則第6条・8条に基づき、総会において役員(会長・会計監査)を選出することとなっているとの説明があり、その選出方法について諮られた。選出方法が議長に一任されたのを受け、月永議長から前回同様、大学側に候補者の推薦を依頼したいとの提案があり、承認された。依頼をうけた大学側(佐藤学務局長)より次の各氏が推薦された。

会長 桐原利之氏
会計監査 幸田類氏 月永美世香氏
月永議長が大学側から推薦された各氏について諮ったところ異議なく承認された。
続いて桐原新会長より就任の挨拶があった。

◇第3号議案〈平成22年度事業計画並びに予算〉
桐原新会長より、議案書に基づき概要説明があった。審議の結果、原案のとおり承認された。

議事終了後、下記の退任役員へ渡辺学長より感謝状と記念品が贈呈された。

山岡英夫氏、多田博子氏、福井文子氏

5. 閉会の辞 司会 塩澤尚子

◇懇親会
九段校舎13階ラウンジに移動し、懇親会が開催された。17時、盛会のうちに終了した。

議長 月永 美世香氏 ㊟
議事録署名人 権平 雅子氏 ㊟
" 永松 はるみ氏 ㊟
書記 國府田 恭子氏 ㊟



平成22年度 総会余滴

総会出欠ハガキの通信欄から、会員の方々のご意見をまとめました。紙面の都合によりすべてを掲載することはできませんが、ご了承ください。

○就職困難の時期、いろいろと学生に対して講座を開いて下さり、有難く思っております。娘も参加しておりますが、内容を親にもお知らせ下さるとさらに応援がしやすいと感じております。

(山口県 国文3年)
○九段校舎の学食のあり方についてご検討願います。
(千葉県 政経3年)



受付(父母会役員)

○父母会報楽しみにしております。学校行事のことや、学生生活の一端がうかがえます。これからもお願いいたします。

(千葉県 政経2年)
○父母会の役員の皆様にも感謝しております。これからも子ども達のサポート宜しくお願いいたします。
(神奈川県 国文3年)
○大学及び父母会の発展を祈念させていただきます。

(埼玉県 中文1年)
○連休時や、学校行事(大学祭等)と合わせて実施頂けると有難いです。
(山形県 政経1年)
○スクールのバスの我孫子便をふやしてほしいです。

(茨城県 政経2年)
○大変お世話になっております。いつも感謝の気持ちでいっぱいです。



総会

ありがとうございます。
(千葉県 政経3年)
○校内の自販機ですが、もう少し安くならないでしょうか。

(千葉県 国文3年)
《大学より》
九段校舎学食につきましては、大学として、一般客の利用時間制限に関する掲示及びアナウンス、また、この4月より学食・売店での弁当販売、1号館・3号館での屋外販売等を開始し、少しでも快適な学食となるよう努力しております。今後も改善すべく検討してまいります。
スクールバスは利用状況を踏まえ運行しております。何卒ご理解のほどお願い申し上げます。
毎年、貴重なご意見を頂戴し、ありがとうございます。今後ともよろしくお願い申し上げます。



役員の紹介

氏名	役職	学年	氏名	役職	学年
桐原利之	会長	4年	吉田浩之	委員	2年
篠塚義光	副会長	3年	権平雅子	委員	2年
佐藤一樹	副会長(学務局長)		國府田恭子	委員	2年
幸田類	会計監査	4年	永松はるみ	委員	2年
渡辺良子	委員	4年	鳴海るみ子	委員	1年
月永美世香	会計監査	3年	岩田秀生	委員	1年
堀川智子	委員	3年	星照子	委員	1年
栗田順子	委員	3年	三輪秀彰	委員	1年
塩澤尚子	委員	3年			

平成22年度役員



中国文学科
堀越雄大

高校の時、大学ではあまり勉強できなかつた漢文をもっとやりたいと思いい松学舎大に入学してからすでに二か月近く、はじめは高校時代の知り合いは先輩が一人いるだけで同級生は皆無、授業科目や教室も多く内心非常に心細く思っていました。しかし、サークルに入ったり授業に出たりしているうちに知り合いも徐々にでき始め、大学には勉強しに来るだけでいいと思っていたその考えが既に誤りであることを認識させられました。とはいえ、学生の本分は学問であるのでこちらも疎かにはできません。もっともこの校舎は近くに国立国会図書館や国立公文書館などの公的機関、神田古書店街など勉強には十分な環境が揃っており自主学习のための資料に事欠きません。大学の授業もとりにあえず一年生なので基礎が多くなつかつていける授業です。大学からはじめた中国語やほかにも専門的な授業は難しいのですが、すべてにおいて遣り甲斐があり充実した学生生活をおくれます。

そんな大学生活の後には就職が待っています。最近では社会のニュースや新聞の記事を見るだけで気が滅入っている不況の仕業です。さらに政治の世界でもここ数年は一年ごとに国のトップである内閣総理大臣が変わり昨年は政権までもが交代しています。金融と政治の二つが混乱している今だからこそ、過去には犬養毅や牧野伸顕等の著名な政治家を輩出している我が校から政治家となつて活躍してくれる人がまた出てくれるのではないかと思つたりします。

自分が将来何になりたいか、何になら仕事を全力で楽しめるか、今はまだ皆目見当つきません。だからと言って今を無為に過ごすのではなく何かしら自分で目標を持ち、その目標が将来に繋がればよし、繋がらなくても取り組んだことは決して無駄にはなりませんから。



国際政治経済学科
仲佐眞未

桜が満開の春に入学を迎えて三ヶ月、周りはわからない事だらけで、高校の友人と二人で毎日、過ごしていました。今では少しづつ友達も増えてきて、とても充実した毎日を送っています。入学したての頃は不安なことばかりでしたが、大学生活にも慣れてきて、毎日楽しいと感じます。今、私はとてもいい友人たちに恵まれたと胸を張って言えます。

大学生活は、高校の時と比べて自由で、たくさん新しいことを経験することができると、とても新鮮に感じます。高校では学ぶことのできなかつた授業や、自分で決める時間割、全てが初めてのことはかりで不安と期待が入り混じった気持ちでいっぱいです。

私が大学に入学しようと思ったのは、「なんとなん」とか、「みんなが行くから私も」とか、そんな適当な理由からでした。二松学舎大学を受験した理由も、家から近いから、という理由でした。しかし、高校生最後の一年間、頑張つて勉強して無事合格できたときの達成感は計り知れないほど大きいものでした。在学中にいろいろなことに取り組みたいと思うきっかけにもなりました。「備えあれば憂いなし」という言葉がありますが、簿記検定やTOEICなど就職活動に役立つ検定を取りたいと最近では思うようになりました。長いようで短い大学生活、悔いの残らないように過ごしていけたらいいな、と思います。

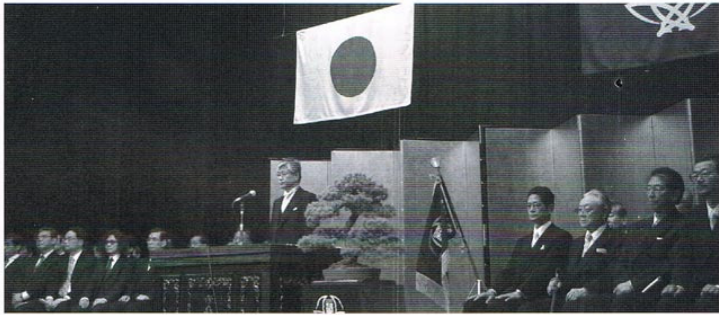
せっかく両親が行かせてくれたという大学、今までのようにだらしない過ごし方ではなく、四年間を有効に使い、一日一日の大切さを噛み締めて芯のある人間になれるように、毎日を通していききたいと思つます。そして自分自身のやりたいことを見つけて、将来、親が自慢できる娘になれるように日々努力をしていきたいと思っています。

これから四年間、つらいことや、大きな壁に当たるともあるかもしれませんが、友人たちと共に乗り越えて、充実した大学生活を送りたいと思つています。

大学に入学して



桜花爛漫の四月の入学式からはや三ヶ月余、八〇七名を数えた新入生もキャンパスでの生活にも慣れ、ようやく大学生らしくなってきました。高校時代とは異なり、自分の裁量・責任で、判断・選択し、創り上げていく生活が始まりました。新たな出会う、様々な経験を得た学友が二松学舎で新しいスタートを踏み出しました。ここでは、大学生活に対する抱負・意気込みを各学科の新入生に書いてもらいました。



大学に入学して早三ヶ月、慣れない環境や高校までとは大きく違う授業のカリキュラム、初めての一人暮らしに右往左往していた当初に比べ、自分なりの生活リズムも確立し、ようやく毎日の授業に余裕を持つて向かえるようになりました。しかしそれとともに、「大学で学ぶ」ということの難しさにも気が始めました。大学生活というのは良くも悪くも自分のために賢沢に時間を使える四年間であり、将来のための大きな準備期間でもあります。緊迫する世界経済に端を発する厳しい就職難の中で、企業が必要としている学生の資質はどんなに変化しています。単なる学歴や成績のよさだけではなく、コミュニケーション能力や幅広い知識、総合的な思考力など、私たちに求められているものは机上の勉強だけではありません。

大学というのは非常に自由な雰囲気、勉強するのも遊ぶのもすべて自主性に任せられています。やる気さえあればいくらでも勉強して将来のための様々な経験を積むことができないほど大きいものでした。在学中にいろいろなことに取り組みたいと思うきっかけにもなりました。「備えあれば憂いなし」という言葉がありますが、簿記検定やTOEICなど就職活動に役立つ検定を取りたいと最近では思うようになりました。長いようで短い大学生活、悔いの残らないように過ごしていけたらいいな、と思います。

せっかく両親が行かせてくれたという大学、今までのようにだらしない過ごし方ではなく、四年間を有効に使い、一日一日の大切さを噛み締めて芯のある人間になれるように、毎日を通していききたいと思つます。そして自分自身のやりたいことを見つけて、将来、親が自慢できる娘になれるように日々努力をしていきたいと思っています。

これから四年間、つらいことや、大きな壁に当たるともあるかもしれませんが、友人たちと共に乗り越えて、充実した大学生活を送りたいと思つています。

大学生活の四年間で、専門的で難しい授業に高い意識を持って取り組むこと、サークルで仲間や先輩との交流を深めること、アルバイトやボランティアで社会を学ぶことなどすべての経験が社会に出た時の大きな土台となります。大切なのは、常に「どうしたら自分の将来のために有効な四年間を過ごせるか」を考えながら生活することです。後から振り返ったときに揺るぎない自信になるような四年間を過ごさなければなりません。大学生活はまだまだ始まったばかりです。それを確実にこなすことは難しいかもしれませんが、二松学舎大学で切磋琢磨し、四年間を充実したものにすることを頑張つていききたいと思つています。



今回のこの欄では、キャリアセンターにおける就職支援の状況についてご説明いたしました。今回はまず、「J-NET求人システム」についてご紹介いたします。

このシステムはその名の通り、本学学生向けに求職者検索をネット上で検索するものです。以前は学校に来て、掲示板やファイルなどから企業選別をしていましたが、このシステム導入により、自宅からでも検索することができるようになりました。各々の希望条件で絞り込んだ企業をスムーズに探し出すことができるようになりました。

更に、このシステムのもう一つの優れた機能としてメール配信機能があります。この機能を使用することにより、企業から来た情報やキャリアセンターが実施する各種講座・支援行事の申し込みなどを学生に向けて配信しています。また、キャリアセンターが独自に得た採用担当者による企業の裏話や時節に合ったアドバイスなどもタイムリーに発信しております。

ところが残念なことに登録者数は、就職活動真っ最中の四年生でも七五〇名中四五〇名で、三年生では七〇〇名中三八〇名です。二

年生、一年生にいたってはまた一〇〇名程度しか登録されていません。携帯メールでの受け取りも可能となっておりますが、アドレス変更などをしてメールが不着になったままの学生も増えていきます。就職活動は情報戦です。「知らなかつた」ために不利益を生じてしまうことのないよう、今一度お子様に確認いただき、至急手続きをするようご指導ください。

さて現在の就職活動状況についてご報告いたしました。就職環境はいまだ厳しく、内定を得た四年生はまだまだごくわずかです。しかし六月に入り、学校へ直接求人依頼に来る企業も増えていきます。

また、教育実習が始まりました。毎週のように公務員試験が行われるなど、いよいよそれぞれの進路に向けて最終段階を迎えています。今後の活動の基本は、「キャリアセンターをいかに利用するか」といっても言い過ぎではありません。実際、苦戦続きの学生が窓口で相談を受けている時に、同時期に来訪した企業と互いの希望が合致して選考に進み、内定をもらったという事例も少なくありません。このような

キャリアセンターだより 15

場面に遭遇しますと、つくづく「人の縁」というもの不思議さを感じますが、それも学生が「相談に来る」という行動を起こしたことから始まっています。なかなか内定が取れず、就職活動が長期化してくると気力・体力ともに疲れ切ってしまうという学生も目にします。しかし、諦めて行動を止めてしまったら、何も得ることができません。

悔いのないような活動を望むとともに、キャリアセンターとしては、「学生のために」の合言葉のもと、最後の一人までしっかりと支援をしていきたいと思っております。三年生の活動もインターシップという形で始まります。今年度からは「インターシップ特講」を開講し、さらなるキャリア教育の充実を図ります。また、夏休み明けからは、全員を対象に「個人面談」を実施します。

一・二年生につきましては、夏休みを十分に謳歌してください。長い夏休みは、学業だけでなく、クラブ・サークル活動、アルバイト、資格取得や旅行など様々なことに挑戦できるチャンスです。ここで様々な

経験を重ねておくことにより、今後の就職活動に生きてきます。アルバイト一つとっても、ただ時給などの条件面だけで選ぶのではなく、「キャリアを積む」という視点から、得意なものを伸ばしてみ、苦手とされていることに挑戦してみるという気持ちを持って行動するだけで今後に対する姿勢が全く変わってきます。「時給がいいのはなぜだろう」と考えるだけでも違うかもしれません。

キャリアセンターからのアドバイスは、すべて「就職のため」というイメージのため、中にはあまりいい印象をお持ちでないご父母の方もいらっしゃるかもしれません。しかし、「就職のため」は「社会人(大人)として生きていく」ことに結び付いていることをご理解ください。

昨今では、文部科学省でも「就業力育成」に力を入れており、本学でも「学生支援プログラム」の助成を受けています。夏休みにも助成による支援事業としてキャリアセンター主催の各種講座を開催していく予定です。詳細が決まり次第、J-NET、掲示で学生に向けて周知をしていきます。



文学部教授
キャリアセンター長
山口直孝

学生の頃は、ずいぶん暇だった。時間だけありあまついで、しかし、浪費しかできなかった。

大学時代、熱中したのは、まず麻雀である。学校の近くに雀荘が集まる一画があり、そこに入り浸っていた。午前〇時に営業が終わると、今度は友人の下宿へ。四人で行う遊びゆえ、一人が大勝ちしておしまいとはならない。負けている者が納得せ



国際政治経済学部教授
中山政義

私は国内の大学で四年間、海外で六年間学んだ。この二つの時代は全く違う環境にあったが、それぞれの中で学んだことは不思議に絡み合い、充実した学生時代を過ごすことができたと感じている。

中学生の頃から大学教員志望の目標だけは持っていたが、のんびり屋のため本気で勉強しなかった。大学に入学してさすがに努力が必要と気が

ず、ずるずる延長戦が行われる。徹夜で打ち続けて頭が朦朧となり、他愛のないことでみなが笑い崩れるようなこともしばしばであった。

次にのめりこんでいたのが、トランプ。推理小説同好会なるサークルに所属していたが、活動の中心は批評や創作ではなく、カード競技だった。よくやったのは、ハートというトリック・ゲーム。ほかにナポレオン・メイド・イン・ジャパンや新エリュシスなども人気があった。無駄に頭を使い、かけひきするのが楽しかった。

付き、好きな授業を仲間と最前列で聴講して、目標に向かって、目をつもっていた。大学での良い成績が、大学教員への道と思

私の学生時代

い込み、答案用紙には「優でなければ不可を下さい」とメモを残して、優を集める努力もした。いま思えばあまりにお粗末である。大学の自由な雰囲気戸惑い、気持ちばかりはあった。

学生時代は速い昔となったが、大切な節目ごとに先生方にはお世話になった。その時のご指導は今の私に大きな影響を及ぼしている。入学し

これも始めると、簡単には終わらない。スコアをつけ、ランキングを競った。金も賭けないので、よく飽きなかったものである。

ほかには松田聖子のファンになり、関連商品を無闇に買い漁った。アルバムをくり返し聞き、音楽性を真面目に論じて、コンサートにもせっせと足を運んだ。エッセイや写真集を眺め、虚実のあいひにあるアイドル像に思いをめぐらした。集めたグッズは、今も残っているが、歴史資料という当方の主張は受け入れられず、家人からはゴ

述べるなど幼稚な話題であったと思う。それにも拘らず、私たちを歓迎して穏やかに話を聞いて下さる先生に親しみを感じたのは勿論、その時から大学がとても身近に感じられたのだった。

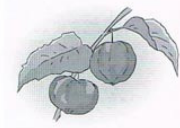
専門ゼミを受ける学生は、指導教授の研究分野や人柄に惹かれて集まるだけに、教員との距離感他は他の授業とは違う。私は先生に、将来の目

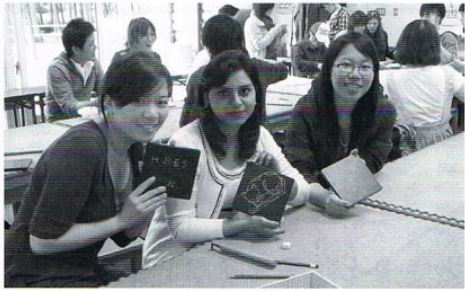
ミ扱いである。確かに、何も活用できていないわけではない。

本は、読むことより、安く入手することが重要だった。神戸や大阪の古本屋をめぐり、文庫や新書を毎日のように買っていた。掘り出し物があると思っていたが、結局未読のまま手放してしまったものも多い。

講義には、興味も起きなかった。とりわけ、専門科目は味気なく感じられた。教室では後方に座り、内職に励んでいたものである。そんな人間が教壇に立っているのだから、世の中はわからない。けれども、自分の居場所をめぐるかすかな違和感は今後も失わないうたい。

先生は自身が留學した時の苦労話をされ、大学に残ることを勧められた。当時の私は大学に残るか、海外の大学院へ進むかで悩んでいた。結局海外への道を選んだが、留學中に何度先生のお話を思い出したか知れない。私は学生時代に、学問の面白さを知り、様々な人との出会いを経験した。恩師や友人達との交流は今も続いている。





日光影体験

平成22年度 外国人留学生交流会 (栃木県日光方面研修旅行)

平成二十二年六月五日(土)～六月六日(日)、栃木県の日光方面にて、外国人留学生との交流会が実施されました。日光の伝統工芸である「日光彫」体験、中禅寺湖畔散策、東照宮参拝などを楽しみ、二日間 にわたり日本文化を満喫しました。



東照宮陽明門にて

第十四回二松学舎大学 二〇一〇年夏期 中国語歴史文化研修について

平成二十二年八月二十二日(日)～平成二十二年九月十一日(土)の二十一日間、三十八名の学生が参加し、中国語学研修が実施されます。父母会では、海外研修学生引率者への助成を行っています。次回の記事にて、引率者及び参加学生から中国語研修の報告を掲載いたします。



POP!GUTS!2010 開催

柏祭(POP)を終えて 一年 南雲ふみ

柏祭POPが六月二十日に行われました。五月から動き出し、学生総会とも並行して準備を行っていたので、準備期間はとてもあわただしかったです。大学に入学して、やっと学校生活に慣れた頃から始まった柏祭POPの準備。初めは何をしらばいいのかわからず、何をすべきなのかわからないことだらけで本当に困りました。しかも、今年は一年生が柏祭キャンパスと九段キャンパスに分かれてしまったので、全員が集まるといことが難しく、話し合いの時間があまりとれませんでした。会う時間も少なかったため、チームワークや協調性の問題も出てきてしまいました。けれども、少ない時間の話し合いも、回数を重ねていけば、だんだんと話もまとまり、進められるようになっていきました。それでも、一番大変だと思ったのは模擬店の準備でした。いろいろな所に電話をしなればいけないし、いろいろな所に行かなくてはなりません。時間も人手もありません。教室の割り振りの仕事もあったので、それとも並行しながらの作業は、自分のふがいなさや情けなさに向き合うことにもなりました。また、暑い中で行った自転車広報。大量のチラシを配ったのは本当に大変でした。ただ、大変だった反面、楽しかったこともたくさんありました。みんなと協力しながら作業をしているのは楽しかったです。それでも、初めてのことで、やはり不安でした。そんな不安の中で始まり柏祭POPは、ひとりひとりが一生懸命動いたおかげでこれといった大きな問題もなく大成功でした。初めてのことで、大変でしたが、とても楽しかったです。協力してくれた先輩たちや、くじけそうになった時に励ましてくれた仲間たちにとっても感謝しています。ありがとうございました。



柏祭(GUTS)を終えて 一年 近常絢子

学生会執行委員会副会長を務めております近常絢子です。今年も無事、柏祭GUTS2010を執り行うことができました。当日行われた競技は、バスケ、バレー、フットサル、ソフトボールの三種目で、昨年より一種目少ないにも関わらず、昨年を上回るエントリー数で大変盛況でした。準備段階では、審判団体とルールの確認や、必要な物品の確認などの綿密な打ち合わせを行い、トーナメント表やエントリーシートを作成し、プレイヤーブックを参加者に配布しました。柏祭(文化の部)POP2010と並行しての準備だったために、学生会執行委員会内で切羽詰まった時もありました。あまり柏祭GUTSの準備ができず、期限に間に合わなかったらどうしようかと、そんな不安で悩んだことも、仲間内でぶつかったこともありました。しかし、そんな学生会執行委員会を支えて下さったのは、他でもないエントリーチームの代表者であったり、審判団体の方であったり、先輩達でした。昼休みなどにチーム代表が、積極的にルールの確認などに訪れ、柏祭GUTSにこんなに興味・関心を持ってきてくれるのだと、次第に学生会執行委員会の士気も高まっていきましました。みんなで柏祭GUTSを成功させよう!そんな気持ちを胸に抱き、当日を迎えました。当日、途中から雨が降り出すなど恵まれた天候ではありませんでした。

新入生歓迎交流会

「いらっしやい新入生」はじめまして、学生会執行委員会の会長を務めております、文学部国文学科二年白井敦です。今年の新生歓迎式典は、新入生が九段キャンパス、柏キャンパスに分かれたということで、両キャンパスで新生歓迎式典を行いました。九段での新生歓迎式典は、初めての試みだったのでとても不安でした。本日に来てくれるのであろうかなど毎日不安を抱えながら企画を進めていきました。そして九段キャンパス新生歓迎式典当日、たくさん新入生が九段キャンパスを訪れてくれました。本当に嬉しかったです。九段キャンパスでは、新入生を各教室に割り振り、クラブ・サークルの団体の皆さんが各教室を回り、自分達の団体の説明会などを行いました。各教室の様子を見てみるものと新入生は、楽しそうに笑っていました。その笑顔を見たとき本当に企画して良かったと実感しました。九段キャンパス新生歓迎式典が終了し、次は、柏キャンパスでの新生歓迎交流会の準備に取りかかりました。新生歓迎交流会は、本日が、各競技担当者の奮闘もあり、無事に全ての試合を終えることができました。どの試合もとても素晴らしいものとなりました。どの試合も取り分け決勝戦は、どの競技も試合のレベルが高く、白熱したものでなりました。試合参加者も負けてしまったりも、白熱している姿を見て、柏祭GUTSを企画して良かったと思えました。私は自分を負かしたチームの応援はなかなかできるものではないと思います。これが二松学舎大学のいいところであり、私が二松学舎大学を好きなのところでもあります。全試合が終了した後、チーム代表者から学生会執行委員会の連絡担当に、お礼と一お疲れ様です。来年も柏祭GUTSの運営をよろしくお願ひ致します。という内容のメールが届いたときに、頑張った良かった、団体との信頼関係がこうして生まれていくのだなと思いました。こうして柏祭GUTS2010が何事も問題なく運営できたのも、私達が悩んだときに相談のつてくださった先輩方、準備や片付けで手伝ってくださったチーム代表者の方々、そして授業・事務課の方々のご協力があったからこそ、と思っております。ありがとうございました。来年は今年学んだことを生かして、エントリーされた方がより楽しんでいただけるように、様々な工夫を凝らしていきたいと思っております。来年も再来年も柏祭GUTSをよろしくお願ひ致します。



《佐藤晋ゼミナール》

私たちが所属している佐藤ゼミでは、日本を取り巻いている国際社会の問題や、日本の政治的問題といった世界中で起こっている事を佐藤先生が毎回違う内容をピックアップし、その内容が出てくるプリントや雑誌の論文を読んで、今どんな事が起こっているかを理解し、その内容を要約して発表します。

発表をする際は、学生が要約した内容を発表し終わったら先生が補足情報をつけて足してくれたり、発表し

《中川ゼミナール》

中川ゼミでは近世の文化・芸能を研究対象にしています。

寄席や歌舞伎が中心ですが、周辺の芸能の流行や時事・生活文化も関わってくるので、授業では当時の随筆などをテキストにして読み、出てくる様々な事項について考察を交わしたりしています。芸能の情報だけでなく当時の歳時・事件・噂話・災害なども知ることができるので読んでいて興味深いです。

四年では卒業論文で使う

こともあるので、断本をテキストにくずし字に挑戦しています。今の私たちに解りにくいオチがどういことなのか、今で言うどのような「笑い」になるのかといったことを考えたり、そこから現在の落語や歌舞伎の話題になったり。断本から生活のちよとした文化も読み取れて、くずし字は読みにくいですが楽しく勉強しています。

また、近世の芸能ということであるに芸能に触れるため、セメスター毎に一回ずつ、有志参加による鑑賞行事を行っています。

落語や歌舞伎・お祭りなど、

ゼミ探訪

た内容に対しての質問をしてくれるので、いい緊張感をもつて授業を受ける事が出来ます。ゼミは、他の授業と比べると人数が少ないので、一人一人の発表を聞くことによって自分では分からなかった事が分かったり、新しく気づく事もあるので非常に勉強になります。又、ゼミでは就職活動で大切になってくるSPIや時事問題などの対策などをして下さっています。

ゼミを担当して下さっている佐藤先生は、授業の話だけではなく私たちの就職についての話をしてくれ



国際政治経済学部 佐々木 学

学生相談室

だより 69

カウンセラー 阿部千香子

春セメスターも終盤となり、戸惑いや不安に満ちていた新入生たちも大学生活にすっかり慣れたように思えます。一方、第一希望の大学への未練を断ち切れなかったり、理想の大学生活と現実とが違っていたり、心の底から本学の学生になりきることができないという方もいます。

一年生の課題は大学に適應することです。そのためには過去の生活に「さようなら」をして、この大学での生活に「こんにちは」をする必要があります。しかし、進学に際して強い不本意な気持ちを持つている学生は「さようなら」に時間がかかるでしょうし、人中

で緊張しやすい学生には「こんにちは」が難題となるでしょう。学生の挫折の四割は一年次に生じると言われています。一つの山はゴールデンウイーク明けです。四月は多忙なスケジュールをこなすのに精いっぱい、考える暇なく日々が過ぎていきます。連休に入つて余裕ができると、ふと現状

を振り返ります。自ら学ぶスタイルについていけず、授業中は焦りていっぱい。お昼を食べる相手がおらず、無理して入ったグループでは浮いている気がする。多くの学生は「休み明けから頑張ってみよう」と思い直すのですが、中には「あの大学に入れていたら」「自分には大学は無理だ」と思い、休み明けから登校しなくなる学生もいます。

二、三年生や四年生にも課題があります。二、三年生は自主的な活動を行い対人関係を深めていくこと、四年生は進路選択を通じて自分の生き方を見つけていくことです。課題に取り組む途中での挫折経験は成長につながりますが、中にはそこで動きを止めてしまう学生もいます。

本学ではガイダンスを行い、学生がそれぞれの課題を達成するための助けとなる機関を紹介しています。学生相談室もその一つで、六名のカウンセラーが常駐し、学生の学業、心理、生活面の相談にのっています。

第一回役員会開催

平成二十二年度第一回役員会が、六月十二日(土)柏校舎で開催されました。

当日は、桐原新会長をはじめとして新役員四名を含めた十三名の役員が出席しました。

役員会では、本年度の役員の業務分担(広報・企画)、年間活動予定について審議しました。

次回役員会は七月の予定です。

二松学舎大学漢詩コンクール開催

次のおり漢詩コンクールの作品を募集しております。

奮って応募ください。

対象 高校生、大学生

募集 ●作詩部門 七言絶句 詩題は自由

●鑑賞文部門 高校生の部のみ 唐詩(律詩・絶句)のうち、一作品(八〇〇〜二〇〇字) 優秀作品には賞状と盾ならびに賞品を授与いたします。

応募期間 平成二十二年九月一日(水)〜九月十日(金)

詳細につきましては、大学ホームページをご覧ください。

編集後記

平成二十二年度に入りまして、はじめての父母会報をお届けいたしました。今年度は、文学部五百七十七名、国際政治学部二百九十名、計八百七名の新入学生を迎えて新学期がスタートしました。ご入学の保護者の皆様には、本当におめでとうございませう。大学での父母会という存在に、少し驚かれる方もいらっしゃるかも知れません。

平成五年に発足した二松学舎大学父母会は、大学と密に連携・協力して、学生生活の側面から支援活動を行っています。詳細はホームページをぜひご参照ください。アドレスを覚えなくても「二松学舎」で検索してください。すぐに大学のホームページが見つかります。そこにある「父母の方へ」をクリックしましょう。会長のメッセージをはじめ、これまでの活動記録、今後のイベントなど、様々な情報がわかりやすく掲載されています。さらに「年間スケジュール」に進んでいただきますと、写真もたくさんご覧いただけます。今年の入学式や新入生歓迎会の様子もアップされています。

新役員も加わって、また新たな一歩を踏み出した父母会をどうぞよろしくお願いいたします。



文学部

学校法人二松学舎(二松学舎大学・同附属高等学校・同附属沼南高等学校)の平成21年度決算、22年度予算の概要を掲載いたします。

学校法人二松学舎 平成21年度決算の概要

平成21年度の状況

平成21年度の主要事業として、大学の九段集約に向けた九段3号館の建築をはじめ、九段1号館の改修工事、附属沼南高校南校舎防音関連工事、附属高校図書館の書架耐震化、その他必要な施設設備の整備等を行ったほか、当年度は、附属沼南高校創立40周年にあたり、記念式典および祝賀会その他各種記念事業を実施した。

入学者の募集定員充足率は、大学/学部128%、附属高校107%、沼南高校100%であり、在籍者の収容定員充足率は、大学/学部124%、附属高校104%、沼南高校93%であった。学生生徒等納付金は全体では前年度比減少となった。大学の九段集約効果により志願者が文学部2,387人(前年度比157%)、国際政治経済学部1,327人(前年度比172%)と前年度比大きく増加し、入学検定料収入が増加となった。

平成21年度の決算概況

学校法人における決算書は、事業年度の消費収入と消費支出の均衡状態や財政の健全度合いを示す**消費収支計算書**、学校法人の諸活動に関わるすべての資金の流れを示す**資金収支計算書**および年度末における資産・負債・正味資産の状態を示す**貸借対照表**から成っており、それぞれ別表1、別表2および別表3のとおりである。

1. 消費収支計算書について(別表1)

消費収支計算では、帰属収入は51億4千3百万円、基本金組入額は9億5千7百万円、消費収入は41億8千6百万円に、消費支出は50億4千5百万円になり、8億5千9百万円の消費支出超過となった。

消費収入では、入学者数は大学院33名・学部765名・附属高校267名・沼南高校250名で前年度比5名増加、在籍者数は大学院94名・学部2,971名・附属高校780名・沼南高校698名(人数は平成21年5月1日現在)で前年度比41名増加、学生生徒等納付金は、大学の在籍者数減により、37億2千8百万円(前年度比2千2百万円の減少)となった。補助金は、経常費補助金が大学は減少、附属高校・沼南高校は前年度比増加し、また沼南高校南校舎防音工事補助金等により、全体では10億2千7百万円(前年度比4千9百万円の増加)となった。また、資産運用等収入(受取利息配当金等)は1億3千1百万円(金融環境低迷により前年度比1億8千万円の減少)となった。消費支出では、人件費は26億8千2百万円(退職給与引当金繰入額減少等により前年度比2億円の減少)、教育研究経費は14億9千1百万円(前年度比7千万円の増加)となり、管理経費は4億5千6百万円(前年度比9百万円の増加)となった。

2. 資金収支計算書について(別表2)

収入の部では、資産売却収入は有価証券の売却等が少なく9億1千1百万円(前年度比10億8千8百万円の減少)となった。借入金等収入は東京都私学財団借入金(附属高校入学支度金)2百万円があり、学納金等の前受金収入は9億3百万円(前年度比7千9百万円の減少)となった。

支出の部では、人件費支出は退職者増加により退職金支出が増加し、27億2千4百万円となり、教育研究経費支出は10億3千6百万円、管理経費支出は4億3千1百万円となった。借入金(大学校地取得資金)返済および利息支出は2億9千5百万円となった。施設設備関連の支出は、大学校舎の建築・改修、両高校の校舎整備、図書・備品購入等で17億6千6百万円となり、資産運用支出は11億6千2百万円(前年度比8億3千1百万円の減少)となった。このほか前期末未払金の支出等があり、これらの結果、平成21年度末における次年度繰越支払資金は、21億5千6百万円(前年度末より3億3千2百万円の増加)となった。

3. 貸借対照表について(別表3)

資産の部は、有形固定資産は、大学九段3号館の建築および九段1号館の改修・整備、沼南高校南校舎防音工事の実施や図書・備品の購入等により164億9千3百万円(前年度末比12億5千2百万円の増加)となった。また、その他の固定資産は、次年度償還となる有価証券の短期(流動資産)への振替、退職給与引当および大学九段新校舎建築および沼南高校校舎整備の各特定資産の取崩し等により54億3千3百万円(前年度末比33億2百万円の減少)となり、流動資産は49億5千8百万円(前年度比18億7千4百万円の増加)となった。

負債の部は、借入金(私学事業団)の返済により借入金残高が減少したほか、退職給与引当金、前受金、預り金が前年度比減少し、未払金が増加したことにより、48億円(前年度比2億7千3百万円の減少)となった。

基本金の部は、建物・構築物・図書・備品等固定資産の取得により第1号基本金組入額9億5千6百万円、第3号基本金(奨学基金)組入額83万円により、207億3百万円(前年度比9億5千7百万円の増加)となった。

これらの結果、貸借対照表は、平成21年度末で資産の部268億8千4百万円、負債の部48億円、基本金の部207億3百万円、消費収支差額の部における翌年度繰越消費収入超過額13億8千2百万円となり、正味財産額は220億8千5百万円(前年度末より9千8百万円の増加)となった。

4. 主な財務比率について(別表4)

財務比率は、概ね良好である。消費収支関係比率では、退職者の減少により退職給与引当金繰入額が前年度比減少し、人件費比率(帰属収入に占める人件費の割合)および人件費依存率(学生生徒等納付金に占める人件費の割合)が前年度比低下した。経費は、大学九段3号館の建築、九段1号館の改修整備、沼南高校南校舎防音改修整備ほか固定資産の増加に伴い減価償却額が増加し、教育研究経費比率(帰属収入に占める教育研究経費の割合)が上昇した。管理経費比率(帰属収入に占める管理経費の割合)、消費支出比率(帰属収入に占める消費支出の割合)は良好な水準を保っている。帰属収支差額比率は前年度に比べ大きく低下したが、全国平均と比較すると引き続き良好な水準を保っている。貸借対照表関係比率では、固定資産構成比率(総資産に占める固定資産の割合)、固定比率(自己資金に占める固定資産の割合)、流動比率(流動負債に占める流動資産の割合)は、大学校地の取得や校舎の建築、資金の保有形態のシフト(預貯金から債券等)などから近年は固定資産の割合が高くなっていったが、次年度償還となる有価証券の流動資産への振替により流動比率の割合が高くなった。自己資金構成比率(総資金に占める自己資金の割合)及び負債比率(自己資金に占める総負債の割合)、基本金比率の変化は借入金残高の減少によるものである。内部留保資産比率、運用資産余裕比率、消費収支差額構成比率、退職給与引当金預金率等は良好な水準にある。

別表1 消費収支計算書

(単位:百万円)

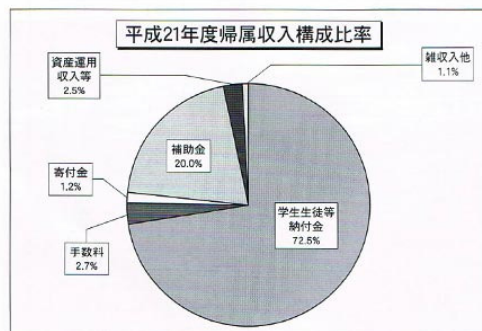
科目	平成21年度	平成20年度	増減
消費収入の部			
学生生徒等納付金	3,728	3,750	△ 22
手数料	138	101	36
寄付金	62	53	9
補助金	1,027	978	49
資産運用収入	124	310	△ 185
資産売却差額	7	2	5
事業収入	6	5	1
雑収入	51	187	△ 136
帰属収入合計	5,143	5,386	△ 243
基本金組入額合計	△ 957	△ 1,306	349
消費収入の部合計	4,186	4,080	106
消費支出の部			
人件費	2,682	2,882	△ 200
教育研究経費	1,491	1,421	70
管理経費	456	447	9
借入金等利息	44	48	△ 4
資産処分差額	371	77	294
徴収不能額等	0	0	0
消費支出の部合計	5,045	4,876	169
当年度消費支出超過額	△ 859	△ 796	△ 63
前年度繰越消費収入超過額	2,241	3,037	△ 796
翌年度繰越消費収入超過額	1,382	2,241	△ 859

別表3 貸借対照表

(単位:百万円)

科目	平成21年度末	平成20年度末	増減
固定資産	21,926	23,975	△ 2,049
有形固定資産	16,493	15,240	1,252
その他の固定資産	5,433	8,735	△ 3,302
流動資産	4,958	3,084	1,874
資産合計	26,884	27,059	△ 175
固定負債	3,274	3,521	△ 247
流動負債	1,526	1,552	△ 26
負債合計	4,800	5,073	△ 273
基本金	20,703	19,745	957
翌年度繰越消費収入超過額	1,382	2,241	△ 859
負債・基本金・消費収支差額合計	26,884	27,059	△ 175

(注)別表の金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計など数値が計算上一致しない場合がある。



別表2 資金収支計算書

(単位:百万円)

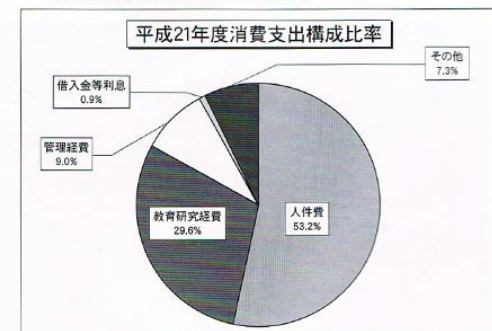
科目	平成21年度	平成20年度	増減
収入の部			
学生生徒等納付金収入	3,728	3,750	△ 22
手数料収入	138	101	36
寄付金収入	56	39	17
補助金収入	1,027	978	49
資産運用収入	124	310	△ 185
資産売却収入	312	1,999	△ 1,688
事業収入	6	5	1
雑収入	51	187	△ 136
借入金等収入	2	2	0
前受金収入	903	982	△ 79
その他の収入	3,142	2,031	1,111
資金収入調整勘定	△ 1,232	△ 1,177	△ 55
当年度資金収入合計	8,257	9,207	△ 950
前年度繰越支払資金	1,824	1,409	414
収入の部合計	10,080	10,616	△ 536
支出の部			
人件費支出	2,725	2,927	△ 202
教育研究経費支出	1,037	1,065	△ 28
管理経費支出	431	423	8
借入金等利息支出	44	48	△ 4
借入金等返済支出	251	250	1
施設関係支出	1,480	974	506
設備関係支出	286	121	165
資産運用支出	562	1,993	△ 1,430
その他の支出	1,365	1,144	221
資金支出調整勘定	△ 266	△ 153	△ 103
当年度資金支出合計	7,925	8,793	△ 868
次年度繰越支払資金	2,156	1,824	332
支出の部合計	10,080	10,616	△ 536

別表4 主な財務比率

(単位:%)

比率	計算式	平成21年度	平成20年度	20年度全国平均
人件費比率	人件費/帰属収入	52.2	53.5	52.1
人件費依存率	人件費/学生生徒等納付金	72.0	76.9	97.7
教育研究経費比率	教育研究経費/帰属収入	29.0	26.4	34.4
管理経費比率	管理経費/帰属収入	8.9	8.3	8.7
帰属収支差額比率	(帰属収入-消費支出)/帰属収入	1.9	9.5	1.2
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金/帰属収入	72.5	69.6	53.4
固定資産構成比率	固定資産/総資産	81.6	88.6	84.7
固定比率	固定資産/自己資金	99.3	109.0	98.0
流動比率	流動資産/流動負債	324.9	198.7	281.7

(注)「全国平均」は、日本私立学校振興・共済事業団集計による学生生徒数3千〜5千人の大学法人の平均を示す(107法人)。



学校法人二松学舎 平成22年度予算の概要

平成22年度の状況

大学機能九段集約のための施設として九段3号館が平成21年7月に竣工し、平成22年度新入生から九段キャンパスでの教育が開始され、附属沼南高等学校では、平成23年度の閉校をめざし附属柏中学校の設置と「附属柏高等学校」への校名変更の準備が進んでいるほか、昨年度より新体育館の建築を開始し平成23年2月に完成する予定である。九段の附属高等学校では、生徒募集および教育の抜本的見直しなど中期計画を段階的に実施し、大学・両附属高等学校ともに新たな教育改革計画を推進する。

大学の教育・研究推進、両附属高等学校の教育の見直し、学生募集の強化、入口・出口対策、広報体制の充実、キャンパス整備、人事計画と適切な人事の推進、組織の効率化、財務改革、創立135周年関連など「新マスタープラン」に従って着実かつ段階的に実施する。また、法人の財務格付の結果を公表・活用し、自己点検・調査を実施するなど各種改善策を図ると共に、本学の知名度(ブランド力)の向上を通じて入学者の増大に結び付ける。

収入面では、補助金については、引き続き競争的補助金の獲得に努めていくほか平成19年12月より開始した恒常的な寄付金募集体制「二松学舎教育研究振興資金」を収入の一助とするとともに、安全性に配慮した資産運用を引き続き収入の多様化を通じて収益向上を図っていく方針である。さらに、財務改革の方策の一環として本学出資により立ち上げた事業会社(二松学舎サービス)を活用し、学生、教職員へのサービス向上に資する事業を拡大させ収益事業の一環として対応していく。また、支出面については、附属柏中学校を平成23年度に開設予定(認可申請中)であり、各種広報および生徒募集活動を実施する。

大学九段集約に向けた事務組織の見直し、事務の効率化を図りつつ教職員の定員制の遵守により人件費の削減を図るほか、経費全般の見直しを行うことにより収支改善を図ることを平成22年度の予算編成方針とした。

平成22年度の収支状況

1. 消費収支予算書について(別表5)

(1) 消費収入の部について

- ①収入の柱である学生生徒等納付金は、37億8千万円となる見込みである。
- ②寄付金は、二松学舎教育研究振興資金の募集により3千3百万円を見込んでいる。
- ③補助金は、大学及び両附属高等学校とも経常費補助金を主な収入として見込んでおり7億9千4百万円を計上している。前年度比2億3千3百万円の減少となっているが、これまで実施してきた附属沼南高校の防音工事(防衛省補助事業)が前年度まで完了したためである。
- ④資産運用収入は、安全性に配慮した資産運用を行い、1億7百万円を見込んでいる。
- ⑤雑収入は、退職金団体からの交付金6千万円と併せて8千9百万円と見込んでいる。
- ⑥基本金組入額は、附属沼南高校新体育館の建設など施設整備及び設備備品の取得などにより、5億2千7百万円を計上している。

(2) 消費支出の部について

- ①人件費は、27億1千1百万円(前年度比2千8百万円増加)となる見込みである。
- ②教育研究経費は、施設設備の整備、情報システム関連経費、本学所蔵資料及び紀要のデジタル化ほか特別事業費を繰り込み、14億4千5百万円を計上している。
- ③管理経費は、教育研究経費と同様に施設・設備の維持管理費と事務システム関連経費のほか、附属柏中学校の設置に伴う特別事業費等を繰り込み、4億3千6百万円を見込んでいる。

これらの結果、備属収入は49億2千4百万円、基本金5億2千7百万円組入後の消費収入合計は43億9千7百万円、消費支出合計は46億3千1百万円となり、2億3千4百万円の消費支出超過となる見込みである。

2. 資金収支予算書について(別表6)

収入の部は、寄付金収入、補助金収入の減少、有価証券の満期到来による資産売却収入の増加、沼南高校新体育館の建築に伴う私学事業団からの資金借入により当年度収入額は72億5千5百万円となり、前年度繰越支払資金21億5千6百万円と合わせて収入額合計は94億1千1百万円となる見込みである。

支出の部は、施設設備整備費支出の減少等により当年度支出額は65億5千7百万円となり、次年度繰越支払資金は28億5千4百万円となる見込みであり、収入・支出とも前年度に比べて減少となる見込みである。

別表5 消費収支予算書

(単位:百万円)

科 目	平成22年度 予 算	平成21年度 実 績	増 減
消費収入の部			
学生生徒等納付金	3,780	3,728	52
手数料	115	138	△ 23
寄付金	33	62	△ 29
補助金	794	1,027	△ 233
資産運用収入	107	124	△ 17
資産売却差額	4	7	△ 3
事業収入	2	6	△ 4
雑収入	89	51	38
備属収入合計	4,924	5,143	△ 219
基本金組入額合計	△ 527	△ 957	430
消費収入の部合計	4,397	4,186	211
消費支出の部			
人件費	2,711	2,682	28
教育研究経費	1,445	1,491	△ 46
管理経費	436	456	△ 20
借入金等利息	40	44	△ 4
資産処分差額	0	371	△ 371
消費支出の部合計	4,631	5,045	△ 414
当年度消費支出超過額	△ 234	△ 859	625
前年度繰越消費収入超過額	1,382	2,241	△ 859
翌年度繰越消費収入超過額	1,148	1,382	△ 234

(注) 金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計額等が一致しない場合がある。

別表6 資金収支予算書

(単位:百万円)

科 目	平成22年度 予 算	平成21年度 実 績	増 減
収入の部			
学生生徒等納付金収入	3,780	3,728	52
手数料収入	115	138	△ 23
寄付金収入	28	56	△ 29
補助金収入	794	1,027	△ 233
資産運用収入	107	124	△ 17
資産売却収入	1,338	312	1,026
事業収入	2	6	△ 4
雑収入	89	51	38
借入金等収入	500	2	498
前受金収入	1,004	903	100
その他の収入	641	3,142	△ 2,501
資金収入調整勘定	△ 1,142	△ 1,232	90
当年度資金収入合計	7,255	8,257	△ 1,002
前年度繰越支払資金	2,156	1,824	332
収入の部合計	9,411	10,080	△ 670
支出の部			
人件費支出	2,724	2,725	△ 1
教育研究経費支出	946	1,037	△ 91
管理経費支出	411	431	△ 19
借入金等利息支出	40	44	△ 4
借入金等返済支出	250	251	△ 1
施設関係支出	679	1,480	△ 802
設備関係支出	149	286	△ 137
資産運用支出	1,414	562	851
その他の支出	159	1,365	△ 1,207
資金支出調整勘定	△ 214	△ 256	42
当年度資金支出合計	6,557	7,925	△ 1,368
次年度繰越支払資金	2,854	2,156	699
支出の部合計	9,411	10,080	△ 670